

(2) 離乳食

- 離乳食はご家庭と連携をとり、月齢に応じ個別に準備します。

離乳食を進める時は、保護者の方と話し合いの上、ご家庭でお試しいただいた後、実施しています。

話し合いの際に、ご家庭での食事についての育児相談もお受け致します。

離乳食の段階を進める時にはお試しをつけ、お子様ひとりひとりの様子に合わせて調理方法を工夫するなど、無理なく慣れるよう配慮しています。

- 乳児の粉ミルクは園で準備いたします。園では、アイクレオを使用しております。
- 哺乳瓶と乳首は消毒したものを準備しております。ピジョン社製を主に使用しております。
- 冷凍母乳をご希望の方はご相談下さい。
- 月末に、栄養士、0歳児担任、(看護師)で離乳食会議を実施し、個別の対応をしております。
- 離乳食のサンプル展示は、段階別に行なっています。

★ ミルクについて ★

- 当園では逆浸透膜浄水「純水」を使用してミルクを調乳^{※1)}しています。

- 離乳食後のミルクは、食事の量が増えれば減っていきます。

食べられる量や飲む量は、個人差がありますので、必要な場合は、その都度保護者の方とご相談させていただきます。

- ※ 1) 調乳にあたっては、沸騰後 70 度以上のお湯を使用して調乳したミルクを、冷ましてから授乳しています。

(「乳児用調整粉乳の安全な調乳、保存及び取扱いに関するガイドライン(世界保健機関/国連食糧農業機関共同作)」に沿って対応しています)



◎ 離乳とは…母乳または育児用ミルクなどの乳汁栄養から幼児食に移行する過程をいいます。この間に乳児の摂食機能は、乳汁を吸うことから食物を噛みつぶして飲み込むことへ発達します。摂取する食品の量や種類が徐々に多くなり、献立や調理形態も変化していきます。また、摂食行動は次第に自立へとつながっていきます。

◎ 離乳指導の指針…厚生労働省の「授乳・離乳の支援ガイド」に沿って対応しています。

◎ 離乳食を進めるにあたって ～大切なこと～

● 食事内容

- ・ ハチミツ、黒砂糖は乳児ボツリヌス症(※²⁾) 予防のために、満 1 歳までは使用しない。
- ・ 卵白は卵黄よりもアレルギー症状を起こしやすいので、最初は固ゆでの卵黄から始め、様子を見て全卵に進む。
- ・ 牛乳の飲用は 1 歳過ぎからにする。(離乳食の材料としては 1 歳前でも使用可能)
- ・ 魚は白身魚から赤身魚、青身魚へと進めていく。
- ・ 肉は脂肪の少ない鶏肉(ささみ)から進めていく。
- ・ 初めて与えるものは体調の良いときに 1 さじから始める。

※ 2 乳児ボツリヌス症…生後 3 週~6 か月の乳児に見られる。主な症状は神経麻痺である。

1 歳を過ぎると、正常な大腸菌叢が形成され発症しなくなる

